

※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は句読点や記号も一字に数えて解答すること。

1 中学生の裕二さんのクラスでは、国語の授業で、「友達に勧めたい本」をテーマとした一分間スピーチに取り組んでおり、裕二さんは、次の文章のようなスピーチをした。これを読んで、①～③に答えなさい。

花
花 死
花 花 花
花 花 死 花
苑 苑 苑 苑
死 死 死
死 死 死
死 死
死

(吉野弘「花と苑と死」)

この詩を見てください。これは詩人の吉野弘さんが作ったものです。「花」と「苑」と「死」という三つの漢字がひし形に配置されています。図書館でこの詩が収められた詩集に出会い、私は「詩」についての考え方が少し変わりました。今まで「詩」とは書かれている文の内容に注目して味わうものだと考えていましたが、この詩には三種類の漢字しかありません。しかしそうだからこそ視覚的な観点からこの詩のイメージを膨らませることができないのではないかと考えました。

そこで私は漢和辞典で「苑」という字を引いてみました。辞書には「草花を植えて遊び楽しむ園」とありました。「花」がどんどん咲いて「花園」になり、そしてその「花」が枯れて「死」を迎える。そのような花の移り変わりを作者は表現しようと思ったのではないのでしょうか。そう考えるとこの詩が「花壇」に見えてきませんか。たった三種類の漢字でこのような世界を描くことができると感動し、「詩」についてもっと学びたいと思うようになりました。皆さんも図書館でぜひ吉野さんの詩集を読んでみてください。

2 中学生の陽子さんは、国語の授業で、『沙石集』のある場面を学習した。と現代語訳である。これを読んで、①～④に答えなさい。

I 昔、魏の文王、我れは賢王なりと思ひて、臣下の中に、「朕、賢王なるや」と問ひ給ふに、仁佐と云ふ大臣、「君は賢王にてはおはせず」と申す。「いかなれば」と宣へば、「天の与ふる位を受くるこそ賢とは申せ、威を以て位に居給ふ、これ賢王の儀に非ず」と云へり。伯父の王位をうち落して、かの后をとりて我が后とし給へる事を申しけるにこそ。さて曠りて座席を追ひ立てらる。

(昔、魏の国の文王が自分は賢王だと思い、臣下たちに、「私は賢王であるか」と尋ねなされたところ、仁佐という大臣が、「あなたは賢王ではないらっしゃらない」と申し上げた。「なぜか」とおっしゃると、「天が与える位を受けるのを賢と申しますが、あなたは力尽くで即位なされた。これは賢王の作法ではありません」と答えた。伯父の王位を奪い、伯父の后を横取りして自分の后となされたことを申し上げたのだろう。それで王は怒って、仁佐を席から追い出しなされた。)

II 次に郭課と云ふ大臣に、「朕は賢王なりや」と問ひ給へば、「賢王こそ申さめ」と申す。「何の故」と宣へば、「賢王には必ず賢臣生る」と申しければ、この詞を感じて、仁佐召し返し、政正しくし、賢王の名を得たりと云へり。君も臣も賢なる世こそあらまほしく侍れ。

(次に郭課という大臣に、「私は賢王であるか」と尋ねなされたところ、「賢王と申せましょう」と申し上げた。「なぜか」とおっしゃると、「賢王には必ず賢臣が現れる」と申し上げたので、この郭課の言葉に含まれた真意を理解して感動し、仁佐を呼び返し、政治を正しく行い、賢王の名を得たということである。君主も家臣も聡明である世こそ望ましいことです。)

① 「問ひ給ふ」の読みを、現代かなづかいを用いてすべてひらがなで書きなさい。

① 裕二さんがスピーチの中でことばにして述べたこととして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 美しく咲いている「花」にも必ず「死」が訪れること
- イ 詩は内容より見た目の意外性の方が人の心を引きつけること
- ウ 図書館に行くとなんだか発見をすることができると
- エ 詩に対する自分のとらえ方や見方が変化したこと

② 裕二さんのスピーチの特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 具体例を多用することで、聞き手が様々な観点からイメージしやすくなっている。
- イ 調べた情報をもとに説明することで、スピーチの内容に説得力を持たせている。
- ウ 様々な角度から問いかけることで、話題について聞き手の興味を引きつけている。
- エ 意見と事実を明確に分けて説明することで、客観的なスピーチになっている。

③ 裕二さんはスピーチの後、級友からよりよいスピーチにするための助言を受けた。その助言である次の文の X・Y に入れるのに適当なことばを文章中から抜き出して書きなさい。

X と Y は同音異義語なので、二つの違いがわかるようにイントネーションに注意したり間を取ったりしたほうがよい。

次の文章はその授業で用いられたもので、I・II はそれぞれ『沙石集』の原文とめた。この表の X、Z に入れるのに適当なことばを、文章中の現代語訳の部分からそれぞれ十字で抜き出して書きなさい。また Y に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

③ 陽子さんは文章中から読み取れる文王の行動の変化を、次のような表にまとめた。この表の X、Z に入れるのに適当なことばを、文章中の現代語訳の部分からそれぞれ十字で抜き出して書きなさい。また Y に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 文王の怒りを恐れず率直に意見できる仁佐ほどの優れた家臣が出てきた

イ 自分や仁佐のように文王と共に政治を執り行える大臣が二人もいる

ウ 文王を補佐するために国中から数多くの賢い家臣が集まってきている

エ 文王は誰の助けも借りず自分の知力を駆使して現在の地位に就いた

	文王の行動	文王の行動の理由
I	曠りて座席を追ひ立てらる	仁佐が自分のことを「X」という理由で「賢王」ではないと言ったことに腹を立てたから。
←	文王に「自分が賢王であるか」を尋ねられた郭課が、Y ということを根拠に文王を「賢王」であると評価した。	
II	仁佐召し返し	郭課の発言の Z、仁佐と共に政治を正しく行っていることと考えたから。

④ 次の文は、陽子さんがまとめた感想文の一部である。この文中のくくりの部分について推敲し、解答欄の書き出しに続けて、文の意味は変えないように書き改めなさい。

『沙石集』の筆者は外国の話を引き合いに出して、望ましい世の中や政治のあり方について述べているが、その中で私が最も印象に残ったことは、どの国でも同じように君主と家臣の関係性が重要視されるからだ。

次の文章は、小学校四年生の「知里」が、宮沢賢治童話村を訪れる場面である。童話村には「賢治の学校」や「賢治の教室」といった複数の展示施設がある。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

(四枚のうちの二枚め)

同じ班で一緒に掃除をするうちに仲良くなった二学年下の「みどりちゃん」が、交通事故で亡くなった。それ以来「知里」は死ぬことにおびえ、「みどりちゃん」の小さな足音が頭から離れなくなってしまう。そんな中、「知里」は両親とともに岩手県花巻市にある宮沢賢治童話村にやって来た。

「賢治の学校」に続いて、ログハウスがたくさん並んだ「賢治の教室」へ向かった。ここでは宮沢賢治の作品を引用しつつ、鳥や星、動物や植物など、一棟ずつテーマを変えて岩手の自然が学べるようになっていて、修学旅行向けだな、と父親はつまらなそうな声を上げ、じゃあ知里にびったりね、と母親に切り返された。子供向けのわかりやすい言葉で鳥の飛び方や植物の種類、動物のセイタイを説明してくれるので、知里にとっては確かに親しみやすかった。星をテーマにしたログハウスのある展示物の前で、知里の足はびたりと止まった。北斗七星に関する説明文で、賢治の小説のこんな文章が抜粋されていた。

【あゝ、マヂエル様、どうか憎むことのできない敵を殺さないでいゝやうに早くこの世界がなりますやうに】

鳥の北斗七星、というお話の一文らしい。知里は一度この文章を読み、もう一度読んで、^①心臓がキュツと強い力でつかまれたみたいに痛むのを感じた。にくむことのできないきをころさないでいいように。唇を動かして、ゆるりと首を傾げる。自分の体験では絶対にならないのに、殺したくないものを殺して、殺されたくないものに殺されたことがあった気がする。思い出とか記憶とかそんな確かなものでなく、ただ、心や体、血に混ざった小さなものたちが知っている。

童話村を出た後は、道路を挟んだ反対側の、坂を登ったところにある宮沢賢治記念館の方へと足を延ばした。こちらは賢治の経歴をこまかに紹介しつつ、写真や筆記具、直筆原稿などのゆかりの品がたくさん展示されていた。派手さのない展示に知里はすぐに飽きてしまい、館内のベンチに座ってぶらぶらと足を揺らした。

館内を一巡りした^②母親がやってきて隣に座る。父親はまだ賢治の直筆原稿を食い入るようにつめていた。知里もちらつと目を向けたけれど、字が汚いのと漢字が読めないのとで、なにが書いてあるか全然わからなかった。ぶん、と足を振り上げる。

「お父さん遅いねー」

「お父さん、ああ見えて大学生の頃は文学青年だったからね。きつと照れて口に出さないけど、楽しいのよ」

「さっきは文句ばかり言ってたのにー」

母親は機嫌を損ねる様子もなく、しかたないひとよねえ、と喉を揺らしておかしげに笑う。口喧嘩が多い割に、知里の両親は仲がいい。それが知里からすればよくわからない。お父さんなんて面倒くさいし我が儘だし、いいところなんか全然ないと思う。

ちーちゃんおいで、読めないの読んであげる、と母親に誘われてベンチを立った。母は殴り書きのような直筆原稿を指さしながら、エイケツノアサという詩の数枚を読んでもくれた。言葉が難しく、読んでもらっても半分ぐらいしかわからない。ただ、びつくりするくらいこわいのと、言葉がきらきらしているのとを同時に感じて、知里は不思議な気分になった。母親によると、これは宮沢賢治が大好きだった妹の死について綴った詩らしい。気になったところを、もう一度ゆっくりと読んでもらう。

【この雪はどこをえらぼうにも

あんまりどこもまっしろなのだ

あんなおそろしいみだれたそらから

このうつくしい雪がきたのだ】

④ どうして、妹の死にきらきらがあるのだろう。そこには真っ暗しかないはずだ。「あんなおそろしいみだれたそら」みたいに、こわくてつらくてひどいものだと、知里の中のかなが知っている。それなのに、空からやってくる真っ白な雪はきれいなのだ。そんなさみしくて美しい景色が、見える気がする。

「なんか、きれい」

呟くと、母親は「ね、きれいね」と^⑤オダやかに相づちを打った。

心の中で、ひよん、と緑色のバツが跳ねる。悲鳴を上げた小さな体が抱きついてくる。ころころと転がる桜の花びらを、ほうきとちりとりに分かれて一緒に掃いた。付いてくるのに気がついて振り向くと、にいつと唇の端を持ち上げて照れくさそうに笑われた。一年をかけて少しずつ仲良くなった。楽しかった。嬉しかった。たとえ長く一緒にいられないのだとしても、次に会ったらまた大事にしたい。あの子のことが好きだった。

そんな間違いない心が、暗いものに塗り潰されてしまっていていい理由なんて、どこにもなかったはずだ。①の賢治という人は本当に目がいいのだ。こわいこわいとなっても、目の前にあるきらきらしたものを絶対にこぼさない。ちゃんとかまえて、抱いている。

母親が他の展示を見に行っても、知里は同じ原稿の前に立っていた。あんなおそろしいみだれたそらから、このうつくしい雪がきたのだ。読めるようになった一文をなんども唇で繰り返す。

ふと、壁にかけられた白黒写真を見上げた。のっぺりとした顔の男の人が写っている。この見知らぬ男の人は、知里が生まれる何十年前前にこの土地で、この山の匂いを嗅ぎながら、真っ暗闇を見つめてつかまえたものを目の前の原稿用紙へ書き込んだのだ。彼が綴ったきらきらが、道筋のようにまぶたの裏で光る。⑥ これでやつと、あの小さな足音に追いつける気がした。

(出典 彩瀬まる「ハクモクレンが砕けるとき」)

① ———の部分②、⑤を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「^①心臓がキュツと強い力でつかまれたみたいに痛むのを感じた」とあるが、この時の「知里」の心情について説明したものととして最も適当なのは、ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 殺すという言葉から交通事故で亡くなったみどりちゃんのことを思い出して、加害者への怒りがこみ上げてきている。

イ 憎むことのできない敵を殺さねばならない現実の世界を憂う賢治の思いに共鳴し、やるせない気持ちになっている。

ウ 殺したり殺されたりしてきた昔の人々の記憶が自分の中に流れ込み、想像を絶する苦しみに打ちひしがれている。

エ 憎むことのできない敵を殺すということに自分の心の奥底で何かが反応し、こらえきれない切なさを感じている。

③ 「^②母親がやってきて隣に座る」とあるが、この小説における「母親」の役割について説明したものととして最も適当なのは、ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 知里の父親嫌いをたしなめ夫の内心の思いを代弁することで、知里が最終的には父親と和解するという結末へと物語を導いている。

イ 退屈している知里の話し相手となって賢治の詩を朗読してやることで、知里が親に頼りきった子どもであることを読者に示している。

ウ 知里の代わりに賢治の詩を読み上げて知里と詩を仲立ちすることで、知里が死に対する考えを変えていくきっかけをつくっている。

エ 賢治の詩の美しさを熱心に語って知里の気持ちを揺り動かすことで、知里が試練を乗り越え成長していく今後の展開につなげている。

④ 「^③どうして、妹の死にきらきらがあるのだろう」とあるが、何のことを「きらきら」と表現しているのか。宮沢賢治の詩の中から抜き出して書きなさい。

⑤ 「^④この賢治という人は本当に目がいいのだ」とあるが、「知里」がこのように感じた理由について述べた次の文の□□に入れるのに適当なことをばを、文章中から四字で抜き出して書きなさい。

宮沢賢治は人の死のようにこわくてつらい□□に目を凝らして、そのなからきらきらしたきれいなものを見つけ出すことができるから。

⑥ 「^⑤これでやつと、あの小さな足音に追いつける気がした」とあるが、ここで「知里」が感じていることについて説明した次の文の□□に入れるのに適当なことをばを、文章中の□□を使つて五十文字以内で書きなさい。

これまで「みどりちゃん」の死をただこわいものと感じて受け入れられずにいたが、□□と感じている。

【公民の授業を受けた後の中学生二人の会話】

健太 実は、さっきの授業の中で少し気になったことがあるんだ。
明里 えっ？ 平等権の話？ 男女共同参画とかバリアフリーとか……。

健太 そう。教科書にバリアフリーとは「障がいのある人や高齢者などが、社会の中で安全・快適に暮らせるよう、身体的、精神的、社会的な障壁（バリア）を取り除こうという考え」だと書いてあったよね。

明里 建物の段差をなくしたり、優先座席を①a)設けたりすることですよ。

健太 うん。でも「精神的なバリア」となると、イメージがわかなくて。

明里 確かに①b)漠然としていてよくわからないわね。先生に質問してみる？

健太 いや、まず自分たちで調べてみようよ。図書館で本を探してみようか。

【健太さんが図書館で見つけた本の一節】

先日、社会学者・古市憲寿さんとともに、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの四か国を訪れました。オスロへの留学経験もある古市さんの案内のもと、福祉や教育の面で評価の高い北欧諸国をまわり、その実態を肌で感じる事が目的でした。約十日間という駆け足の旅ではありましたが、そこで感じたことがあります。ここでは、私の目指す「障害者を特別視しない社会」が実現されているのではないかと――。

少々、②奇をてらった物言いになります。これまでで最も「障害者に優しくない」国々でした。まちを歩いていても、交通機関に乗っていても、「お手伝いしましょうか？」と声をかけられたり、特別な対応をされたりすることがほとんどなかったのです。もちろん、こちらが助けを求めれば快く応じてくれるのですが、こちらから頼まなければ、とくに見向きされることもありません。それは私にとってじつに新鮮で、心地の良い世界でもありました。

好むと好まざるとにかかわらず、私はどの国においても「特別視」され続けてきました。背の高い電動車いすに興味を示し、「これは日本製か？」などと人懐っこい笑顔で話しかけてくる東南アジアの人びと。宗教心からなのか、街角に立ち止まっているだけで車いすの座席に「ユーロを置いていこうとする西欧諸国の人びと。そして、「どう接したらいいか、わかりません」と人びとの顔にくっきり書いてある日本。

北欧の人びとは、そのどれも違いました。おそらく北欧では、とりわけ親切にしたり、同情したりせずとも、障害者が自由に生きていける社会が確立されているのでしょう。こうした社会が成立するには、段差をなくすなど物理的なバリアを排除することや、就労や保障によって障害者の生活基盤を安定させることなどが前提条件。北欧諸国は、ハード面もソフト面も整えることで、障害者をあらゆるバリアから解放してきたのだろうと想像できます。

③翻つて、日本はどうでしょう。東京などの大都市に限っていえば、ハード面はかなり整備されてきたと感じます。あとは、ソフト面。多くの日本人が、「どう接したらいいか、わかりません」となってしまうのは、いまだ社会のなかで障害者が「特別な存在」であり、多くの人が「慣れていない」ためです。

北欧では、一九六〇年ごろから、「ノーマライゼーション」という理念が広がっていきました。これは、障害者と健常者が区別されることなく、社会のなかでともに暮らしていくことが本来の姿であり、望ましい状態であるとする考え方です。しかし、日本では依然として学校教育の時点から障害者と健常者を分離してしまうことが多く、このノーマライゼーションという理念が実現されているとはいえません。

もちろん、北欧がすべての面において優れた、完璧な社会であるというつもりはありません。たった数日間の滞在では気づくことのできなかった綻び④a)だって、多々あることでしょう。ただ、障害者の問題に限らず、日本社会が抱えている数々の課題に対して、他国の制度などを参考にしながら、それを日本の現状や風土に合わせてカスタマイズしていく試みは、決してムダなこととは思えません。

二〇二〇年、東京にはオリンピックだけでなく、パラリンピックもやっています。あと数年のうちに、何もかもが解決できると思いませんが、海外から訪れた人びとに少しでも、「日本は障害者が生き生きと暮らしている国だ」と感じてもらうためには、まずは私たちの意識を、「隔離」から「共生」へと転換していくことが必要ではないでしょうか。

(注) オスロ―ノルウェーの首都。
カスタマイズ―使いやすさようにつくり変えること。

【文章を読んだ二人の会話】

明里 障がいをもつ乙武さんからは、日本人の顔に「どう接したらいいか、わかりません」と書いてあるように見えるなんて……。

健太 ショックだけど、それこそが「精神的なバリア」なんだろうね。この本で言うと⑤a)が整えられていないことかな。自分のことを振り返って考えてみても、確かに健常者と障がい者との間には、大きな壁があると思うよ。

明里 四年後にはオリンピック・パラリンピックもあるし、私たちにできることはないかしら。

健太 そうだね。「精神的なバリア」を取り除くためにどうすればいいか、もう少し考えてみるよ。そのヒントがこの本に書かれているしね。

① ――の部分⑤、⑥の漢字の読みを書きなさい。

② 「②奇をてらった物言い」の意味として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 人を不愉快にする、失礼な言い方

イ 人の関心を引く、風変わりな言い方

ウ 日本人にしか伝わらない、特殊な言い方

エ 日本人を批判する、皮肉めいた言い方

③ 「④『障害者に優しくない』国々でした」とあるが、ここでの「優しくない」とはどういうことかを説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、【本の一節】の文章中のことばを使って四十五字以内で書きなさい。

北欧諸国では、□□ということ。

④ 「③翻つて、日本はどうでしょう」とあるが、ここで筆者が日本と比較している対象について説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、【本の一節】の文章中から二十五字以内で抜き出して、はじめと終わりの五字を書きなさい。

障害者の行動を阻むものを取り除いたり、就労や保障によって生活基盤を安定させたりすることで、健常者の手助けがなくても、□□北欧の国々。

⑤ □□に入れるのに適当なことばを、【本の一節】の文章中から四字で抜き出して書きなさい。

⑥ 健太さんは、この会話と本をもとに次のような意見文をまとめた。□□の部分に入れるのに適当なことばを、条件に従って書きなさい。

条件

- の部分の内容をもとに、「精神的なバリア」を取り除く方法について、必要に応じて説明を加えたり言い換えたりに書くこと。
- 六十文字以上八十文字以内で書くこと。

私は、公民の授業で「バリアフリー」という理念を学び、「精神的なバリア」とは何かという疑問を抱いた。いろいろと調べてみたところ、乙武洋匡氏の著書では、「精神的なバリア」の具体例として、日本人が障がい者に対してどう接したらいいかわからないという表情をしまうことが挙げられている。

こうした「精神的なバリア」を取り除くために、私たちはどうすればよいのだろうか。乙武氏は「私たちの意識を、『隔離』から『共生』へと転換していくことが必要」であると述べている。私もその意見に賛成だ。日本人は、□□と思う。